



contents

[コラム]

ミスマッチの正体は？

産業界や J07 の要求と大学の達成度の
定量的比較分析…掛下哲郎

[解説]

ティーチング・ポートフォリオとラーニング・
ポートフォリオ—佐賀大学の取り組み—
…皆本晃弥

[解説]

PSP/TSP による実践的な ICT 人材育成の
取り組み
…梅田政信, 片峯恵一

■ 応 一般 Column

ミスマッチの正体は？
産業界や J07 の要求と大学の達成度の定量的比較分析

教育における産学連携は、単に大学教育の一部を企業に委託することではない。大学教育や産業界での人材育成などを一貫した教育システムとして設計し、産学がそれぞれの強みを活かして教育システムの構築や運営に貢献することが真の目的だ。これを進めるために必要なのは、教育成果に関する産学間の相互理解だ。

本会・情報処理教育委員会では、大学教育に対してしばしば指摘される産学間のミスマッチを可視化し、分析結果をフィードバックすることで産官学の相互理解を促進するために、教育機関における教育成果および情報系学科出身者に対する産業界の要求レベルに関する定量的な実態調査（J07 フォローアップ調査）を行っている。

2012 年 3 月の全国大会では収集したデータの概要を報告した。また、本会が取りまとめたカリキュラム標準 J07 を構成する 5 領域の要求レベルを分析した。これらの調査・分析は共通の知識体系を用いているため、相互に比較できる。これまでの調査を通じて以下のことが分かった。

1. 情報系専門能力に対する重要度は産業界の要求全体の 60～65%である。一方、社会人基礎力やコミュニケーション能力の重要度は要求全体の 30～35%を占める。重要度の高い 30 項目により 50%程度の重要度がカバーされる。
2. 情報系専門能力に対する産業界の要求は、調査項目、回答者の年齢、大学時代の専門分野、企業内での立場、取り組んでいるプロジェクトなどによりさまざまである。
3. J07・CS 領域（コンピュータ・サイエンス）は理論重視と認識されているが、プログラミングやソフトウェア工学分野の重要度はカリキュラム全体の 25%を占めており、意外に大きい。
4. 社会人基礎力の育成に関する教育機関の対応は、「教育していない」「積極的に教育している」に二極化している。
5. 学部卒業者の自己評価は、教育機関の自己評価よりも低い傾向にある。一方、大学院修了者は、教えられなくても自己学習する場合があるため、教育機関の評価よりも高い自己評価になることもある。

J07 フォローアップ調査のより詳しい分析結果は以下で公開しているので、ぜひアクセスしていただきたい。

【<http://www.cs.is.saga-u.ac.jp/cresie/news/news.html>】

産業界の要求をより詳細に理解し、大学における教育成果やその達成方法を分析してより信頼性の高いデータを提供するために、J07 フォローアップ調査への協力を本コラムの読者諸兄にもお願いしたい。具体的な調査手順も上記サイトで公開している。

今後、企業の人材育成システムや、各種 IT 資格によって身に付く能力の調査・分析も行う予定だ。教育成果や要求の可視化を通じて、高度 IT 人材を育成する教育システムの一貫性が高まることを期待したい。

掛下哲郎（佐賀大学）

ロゴデザイン ● 中田 恵 ページデザイン・イラスト ● 久野 未結